

農業委員・農地利用最適化推進委員 全体研修会



農業担い手の急速な減少や高齢化、遊休農地の増加など人・農地に関する課題が山積する中、農業委員会組織に課せられた新たな農地利用の最適化の活動をより計画的かつ効果的に実施するため令和4年11月21日に農業委員・農地利用最適化推進委員全体研修会をニューウェルシティ宮崎で開催し、県内約450名の農業委員・農地利用最適化推進委員が参加されました。

松田会長の主催者挨拶の後、一般社団法人全国農業会議所の稲垣事務局長から農業委員会をめぐる情勢と「農地利用最適化の取組」について農業経営基盤強化促進法および農山村活性化法等の改正の概要と農業委員会の役割の内容も含めて講演をいただきました。農業委員等の日頃の生活の中に最適化活動があるということや農業委員等は「農地の番人」であり「農地を動かす人」になったということ等のお話でした。

熊本県合志市農業委員会の福嶋求仁子会長には「地域の未来に向けて私たちにできること」と題して、合志市農業委員会の取り組みや事例報告をいただくとともに女性農業委員としての活動の重要性もお話いただきました。

また、県内事例として宮崎市農政部農政企画課の串間主幹から「宮崎市における人・農地プランの実質化に係る取組について」を、延岡市農林水産部総合農政課の溝邊主事から「延岡市における地域外からの法人参入の取組について」それぞれ報告いただきました。

宮崎市からは、地域の話し合い活動を円滑に進め、「地域で納得して地域農業の未来を考えていくためには、行政主体ではなく、地域の農業や農地状況を十分に把握

している農業委員・農地利用最適化推進委員が関係機関等と連携して進めていくことが必要不可欠だ。」という内容で、延岡市からは、市外からの農業参入の経緯と関係事業の活用等について説明後、「地域に外部からの経営体、特に法人等大きな組織を入れる場合は地域の十分な理解が必要で、その理解を得ることにとっても苦勞する。地域のまとめ役である農業委員・農地利用最適化推進委員が間に入ってくれることで、地域の理解も得られやすい。」という話があり、「地域の話し合い活動にも新規参入促進の活動にも地域の農業に根ざした活動を日頃からしていただいている、農業委員・農地利用最適推進委員の力が必要だ」というお話をいただきました。

